

第2節 小串構内の立会調査

医療技術短期大学部屋外排水管布設工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内

調査期間 平成8年8月1日

調査面積 約6㎡

調査結果 排水管布設のための埋設溝、幅1m、深さ約1.5m、総延長約100mについて、5ヶ所の地点を選んで立会調査を行った。調査順にA～E地点として土層堆積状況を述べる。

A地点は、現地表下約5cmまで：アスファルト舗装、約5～110cm：黒褐色石炭灰（せきたんばい）の造成土、約110～122cm：暗黄灰色シルト、約122～145cmと以下：暗青灰色シルトとなる。B地点は、現地表下約5cmまで：アスファルト舗装、約5～82cm：バラスとマサ土の表土、約82～118cm：黒褐色石炭灰の造成土、約118～140cm：暗灰色シルト、140～154cmと以下：暗黄褐色シルト及び暗青褐色シルトとなる。C地点は建物基礎の埋存があり調査できなかった。D地点は、現地表下約5cmまで：アスファルト舗装、約5～45cm：バラスとマサ土の表土、約45～119cm：黒褐色石炭灰の造成土、約119～127cm：暗灰色粘質土、約127～143cm：暗黄灰色シルト、約143～155cmと以下：暗青灰色シルトとなる。E地点は、現地表下約5cmまで：アスファルト舗装、約5～28cm：バラスの表土、約28～115cm：黒褐色石炭灰の造成土、約115～126cm：暗灰色粘質土、約126～140cm：暗黄灰色シルト、約140～150cmと以下：暗青灰色シルトとなる。

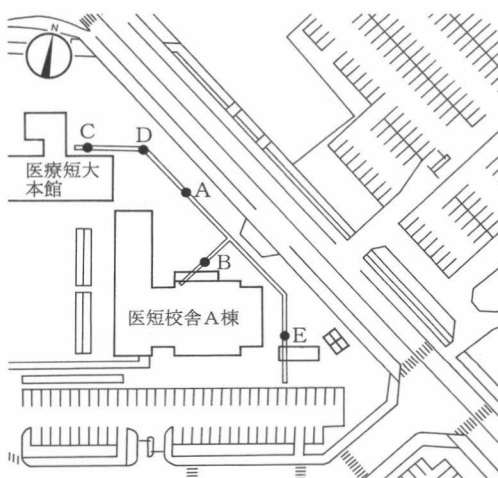


Fig.53 調査区位置図

調査範囲の基本層序は、概ね現地表下約1.2mまでが表土及び造成土、その下部が厚さ約30～50cmのシルト層となっている。このシルト層は、小串地区の過去の調査で検出されている遺物包含層に相当する可能性があり慎重に調査した。しかし、遺構、遺物等は検出できず、今回の調査範囲では、現地表下約1.5mまでの深さには埋蔵文化財は濃密には分布していないことを確認した。(村田)